



「平和の礎を築いた徳川のブレンたち」をテーマに意見交換するパネリスト＝16日午後、静岡市葵区

家康ブレン 功績討論

静岡で徳川
みらい学会
家臣団大会とシンポ

徳川時代の歴史的意義を研究発信する徳川みらい学会は16日、徳川家臣団大会2016・本年度第1回講演会(静岡商工会議所、静岡市、静岡新聞社・静岡放送など共催)を静岡市内で開いた。幕臣の子孫やゆかりの関係者を含む総勢450人が参加し、交流会やシンポジウムに臨んだ。

徳川宗家18代当主の徳川恒孝さんは「江戸時代の文明やこの時代に育った日本人の心の在り方が次の世代に続くよう願いたい」とあいさつした。

遠藤さんは天海大僧正の役割について「三河の一向一揆にあった家康公は宗教に深い思い入れがあったので、その宗教政策を正しく理解し、知恵袋として働いた」と述べた。重臣本多正信・正純が先祖の木村さんは、本多父子の手柄を紹介しながら家康との関係性に触れた。泉さんは「日本が近世に入ることができたのは、家康公が政治経済、宗教文化の種をまいたおかげ」とあらためて功績をたたえた。